



ヤコブ書

第一章 一

神かみ及びおよ主しゆイエスキリストの僕しもべヤコブ、散ちり居をる十二じふにの族ぞうの平安へいあんを祈いのる。

二 わが兄弟きやうだいよ、なんぢら各様さまざまの試練こころみに遇あふば、只ひたすら管くだこれを歡喜よろことせよ。そは汝おんぢらの信仰しんかうの驗たましは、忍耐にんたいを生しやうずるを知し

三 ればなり。忍耐にんたいをして全あつたき活動はたらきをふさしめよ。これ汝おんぢらが全あつたくかつ備そなはりて缺かくる所ところなからん爲ためなり。

四 汝おんぢらの中うちもし智慧ちえの缺かくる者ものあらば、咎とがむることなく、また惜をしむ事ことなく、凡たゞての人ひとに與あたふる神かみに求もとむべし、然しからば與あた

五 へられん。但ただし疑うたがふことなく、信仰しんかうをもて求もとむべし、疑うたがふ者もの聖書改譯原稿用紙

六 七 は風かぜに動うかさされて翻ひるへる海うみの波なみのごときなり。斯かる人ひとは、主しゆより何物なにものをも受うくと思おもふな。斯かる人ひとは、二心ふたこころにして凡たゞて

八 九 その歩あゆむところの途みち定さだまりなし。卑ひくき兄弟きやうだいは、おのが高たかくせられたるを喜よろこべ、富とめる者ものは、おのが卑ひくくせられたるを喜よろこべ、

十 十一 十二 落おちて、その麗うるはしき姿すがたほろぶ富とめる者ものも亦またかかくの如ごとく、その途みちの半なにして已ままづ消き失えせん。

十三 十四 十五 試練こころみに耐たふる者は幸福さいはひなり、之これを善よしとせらるは時ときは、主しゆのおのれを愛あいする者ものに、約束やくそくし給たまひし生命いのちの冠冕かんむりを受うく

十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

業を行ふ者にして

穢

三

べければなり。人誘はるゝとき神われを誘ひ給ふと言ふ

な、神は悪に誘はれ給はず、又みづから人を誘ひ給ふことな

五

し。人の誘はるゝは己の慾に引かれて惑さるゝなり。

六

孕みて罪を生み罪成りて死を生む。わが愛する兄弟よ、自

七

ら欺くな。凡ての善き賜物と凡ての全き賜物とは、上より

もろくろの光の父より降るなり、父は變ることなく、また回

八

轉の影なき者なり。その造り給へる物の中に我らを初

穂のごとき者たらしめんとて、御旨のまに真理の言をも

て我らを生み給へり。

九

わが愛する兄弟よ、汝らは之を知る。されば、おのくの聴

聖書改譯原稿用紙

くことを速かにし、語ることを遅くし、怒ることを遅くせよ。

三

人の怒は神の義を行はざればなり。されば凡ての汚と

溢るゝ悪とを捨て、柔和をもて具の植ゑられたる所の靈魂

を救ひ得る言を受けよ。たゞ御言を聞くのみにして、己を

三

欺く者とならず、之を行ふ者となれ。それ御言を聞くのみ

にして、之を行はぬ者は、鏡にて己が生來の顔を見る人に似

五

たり。己をうつし見て立ち去れば、直ちにその如何なる姿

なりしかを忘る。されど全き律法、即ち自由の律法を懇切

に見て離れぬ者は、聞き忘るゝ者にあらず、その行為によ

六

りて幸ひならん。人もし自ら信心深き者と思ひて、その舌

穢

モ

くつわに響つをかみ翻まへけずおの己こころが心あやまを欺しんじんかば、その信あそ心あそは空あそしあそきなり。ち父  
あやみなるかみ神まへのまへ前まへにまへ潔まへくしてあやま穢あやまなきしんじん信心しんじんは、あやま孤あやま児あやまとあやま寡あやま婦あやまとをあやまその  
あやみ患あやみ難あやみの時あやみに見あやみ舞あやみひ、あやみまたあやみ自あやみらあやみ守あやみりてあやみ世あやみにあやみ汚あやみされあやみぬあやみ是あやみなり。あやみ

聖書改譯原稿用紙

550

第二章

一 わが兄弟よ、栄光の主なる我らの主イエス、キリストに  
 二 對する信仰を保たんには、人を偏り見るな。金の指輪をは  
 三 め、華美なる衣を着たる人、なんぢらの會堂に入りきたり、ま  
 四 た粗末なる衣を着たる貧しき者入り來らん、  
 五 華美なる衣を着たる人を重んじ、視て「なんぢ此の善き處に  
 六 坐せよ」と言ひ、また貧しき者に「なんぢ彼處に立つか、又はわ  
 七 が足下に坐せよ」と言はば、  
 八 汝らの中にて區別をなし、又あ  
 九 しき思を有てる、  
 十 審人とにあらざや。  
 十一 わが愛する兄弟  
 十二 よ、聴け、神は世の貧しき者を選びて信仰に富ませ、神を愛す

者、いり來らん

大體「汝らの中に  
矛盾あり」とす

聖書改譯原稿用紙

一 る者に約束し給ひし國の世嗣たらしめ給ひしに非ずや。  
 二 然るに汝らは貧しき者を輕んじたり、汝らを虐げ、また裁判  
 三 所に坐くものは、富める者にあらずや。彼らは汝らの上に  
 四 稱へらば、尊き名を汚すものにあらざや。  
 五 汝等もし聖書  
 六 にある「己の如く汝の隣を愛すべし」との尊き律法を全うせ  
 七 ば、その為すところ善し。されど若し人を偏り見ば、これ罪  
 八 を行ふなり、なんぢら律法犯罪者と定められん。  
 九 人律法全  
 十 體を守るとも、その一つに躓かば、是すべてを犯すなり。そ  
 十一 れ「姦淫する勿れ」と宣給ひし者、また「殺す勿れ」と宣給ひたれ  
 十二 ば、なんぢ姦淫せずとも、若し人を殺さば、律法を破る者とな

律法、なんぢら  
犯罪者と定めん

人もまた言はん

五

るなり。汝ら自由の律法によりて審かれんとする者のご

三

とく語り、かつ行ふべし。憐憫を行はぬ者は、憐憫なき審判

五

を受けん、憐憫は審判におかひて勝ち誇るなり。

五

わが兄弟よ、人みづから信仰ありと言ひて、もし行為な

五

くば何の益かあらん、斯る信仰は彼を救ひ得んや。もし兄

五

弟或は姉妹、裸体にて日用の食物に乏しからん時、汝らの

五

うち、或人これに安らにして往け、温まれ、飽けといひて體に

五

無くてならぬものを與へずば、何の益かあらん。斯ること

六

く信仰も行為なくば、死にたる者なり。人も亦いはん「なん

六

ぢ信仰あり、われ行為ある汝の行為なき信仰を我に示せ、我

聖書改譯原稿用紙

九

わが行為によりて信仰を汝に示さん。なんぢ神は唯一な

三

りと信ずるか、斯く信ずるは善し、悪鬼もまた信じて慄けり。

三

あゝ、空しき人よ、なんぢ行為なき信仰の徒然なるを知ら

三

んと欲するか。我らの父アブラハムはその子イサクを祭

三

壇に献げしとき、行為によりて義とせられたるに非ずや。

三

なんぢ見るべし、その信仰行為と共に働き、行為によりて全

三

うせられたるを。またアブラハム神を信じ、その信仰を義

三

と認められたりと云へる聖書は成就し、かつ彼は神の友と

五

称へられたり。斯く人の義とせらるは、はた信仰のみ

五

由らずして行為に由ることは、汝らの見る所なり。また遊

云  
 女めラハブつかひト使者うを受これけ之非を他分ちの途まより去しらたせた行義義義によ  
 りて義ぎとせられたるに非あらずや。靈たま魂しなきから懼たの死しにたる  
 者ものなるがかごとく、行おこな為ひなき信しん仰かうも死しにたるものなり。

聖書改譯原稿用紙

ヤコブ書

552

一 わが兄弟よ、なんぢら多く教師となるな。教師たる我ら  
 二 の更に厳しき審判を受くることを、汝ら知ればなり。我ら  
 三 は皆しばしば躓く者なり、人もし言に蹉跌なくば、これ全き  
 四 人にして全身に轡を着け得るなり。われら馬を己に馴は  
 五 せん為に轡をその口に置くときは、其の全身を馭し得るな  
 六 り。また船を見よ、その形は大きく、かつ激しき風に追はる  
 七 とも、最小き舵にて舵人の欲するまゝに運すなり。斯のご  
 八 とく、舌もまたふきものなれど、其の誇るところ大なり、視よ、  
 九 いかにも小き火のいかに大なる林を燃すかを。舌は火なり、

聖書改譯原稿用紙

一 不義の世界あり、舌は我らの肢體の中にて、全身を汚し、また  
 二 地獄より燃出でて、一生の車輪を燃すものなり。獸鳥、畜ふ  
 三 もの、海にあり、もの等、さまざまの種類みな人類に制せらる  
 四 る。また既に人に制せられたり。されど誰れ舌を制すること  
 五 能はず、舌は動きて止まぬ悪にして、死の毒の免つるものな  
 六 り。我等これをして、主たる父を讃め、また之をして神に象  
 七 りて造られたる人を誣ふ。讚美と呪詛と、同じ口より出づ。  
 八 わが兄弟よ、斯る事はあるべきにあらず。泉は同じ穴より  
 九 甘き水と苦き水とを出さんや。わが兄弟よ、無花果の樹、才  
 一〇 りづの實を結び、葡萄の樹、無花果の實を結ぶことを得んや。

斯かくのごとく鹽水しほみづは甘き水あまみづを出いすこと能あたはず。

三

四

汝あんぢらのうち賢かほこくして慧さとき者は誰たれなるか、その人ひとは善よき、  
擧動きんどうにより柔和じゅうわなる智慧ちゑをして行為おこなひを顯あらはすべし。されど

五

汝あんぢ等らもし心こころの中うちに苦にがき妬ねみと黨派たうけい心しんとを懷いだかば、誇ほこるなま本ほん  
真理しんりに悖もとりて偽いつはりるな。斯かる智慧ちゑは上うより下くだるにあらざ、地ち

六

に屬ぞくし、情慾じやうよくに屬ぞくし、惡鬼あくきに屬ぞくするものなり。妬ねみと黨派たうけい心しんと  
ある所ところには乱みだれと各様さまざまの惡あしき業わざとあればなり。されど上う

六

よりの智慧ちゑは第一だいいちに潔いさぎよく、次に平和へいわ、寛容くわんよう、温順おんじゆん、また憐憫あはれみと善よ  
果みとに満みち、人ひとを偏かたより見みず、虚偽いつはりなきものなり。義ぎの果みは

聖書改譯原稿用紙

平和へいわを行おこなふ者の平和へいわをもて播まくに因よるなり。